

青木氏初当選



初当選を決め、万歳をして喜ぶ青木一彦氏(左から2人目)。右隣は珠江夫人＝11日午後8時34分、松江市殿町、島根県民会館

参院選島根選挙区

自民の地盤守る

岩田氏に7万1000票差

約10カ月間の民主党を中心とした政権運営への評価や消費税率の引き上げ問題などを争点とした参院選が11日、投票された。4新人が争った島根選挙区(改選数1)は、自民党の青木一彦氏(49)が民主党の岩田浩岳氏(34)、みんなの党の松内朋雄氏(41)、共産党の石飛育久氏(32)を抑え、初当選を果たした。3年前の前回選で現職を落とした自民党は昨夏の衆院選の島根1、2区に続き、議席を死守。底力を見せた。投票率は71・70%で、前回は0・11%下回った。

戦いの構図は、青木氏の「逆襲」だったが、逆に「青木」といって自民党現職の幹雄元児が看板を前面に押し出し、参院議員会長が5月、病気の知名度を生かすとともに、のたけに5選出馬を断念。秘書として培った中央官庁しそれまでの「新旧対決」との脈絡をアピールした。後継に、青木氏を擁立した自民党内には当初、「世に地域支部を基盤に、他陣営を圧倒する声もあ

織力の弱さを地元民放アナウンサー時代の知名度でカバーしよう」と、2月の出馬表明後、公示までに3千回を超える街頭演説で浸透を目指した。しかし、米軍普天間飛行場の移設問題などで鳩山内閣が退陣。後を引き継ぎ、発足当初は高かった菅内閣の支持率も、消費税率の引き上げ問題などで失速した。

このため、菅直人首相や枝野幸男幹事長ら民主党の閣僚、幹部らが続々と来援

を回った。また、公明党も推薦こそ見送ったものの、従来の選挙協力関係を下地に、与党の政権運営の迷走に支障を及ぼす批判票を取り込み、岩田氏に7万1千票差をつけた。これに対し、岩田氏は組

鳥取も自民・浜田氏

坂野氏との激戦制す



万歳して初当選を喜ぶ浜田和幸氏(中央)＝11日午後9時37分、米子市明治町、祝勝会場

新人3氏が争った鳥取選挙区(改選数1)は、自民党の浜田和幸氏(57)が、民主党の坂野真理氏(32)と国民新党推薦、共産党の岩永尚之氏(53)を振り切り初当選を果たした。自民党は現職の離党で失っていた選挙区議席を奪還。民主党は昨夏の衆院選鳥取1、2区の敗北に続き、自民党の牙城を切り崩すことができなかった。投票率は65・77%で、前回は1・90%下回った。

戦いは、浜田氏と坂野氏が横一線と並ぶ事実上の一騎打ちの構図。菅直人首相をはじめ、民主、自民両党の看板国会議員が続々と来援する全国屈指の大激戦区となった。

浜田氏は今年1月、自民党鳥取県支部の要請を受け、公募手続きを経て出馬を表明。出遅れを挽回(はんか)きたため、国際政治学者の肩書を出し、外交面での「即戦力」をアピールした。陣営は、野党転落に伴い

島根選挙区開票結果

(11日午後11時50分、選管最終)			
当222,448票	青木一彦	49	自新
151,351票	岩田浩岳	34	民新
28,183票	松内朋雄	41	み新
18,512票	石飛育久	32	共新

あきさき
青木一彦氏の略歴

党島根県参院選挙区第3支部長。1985年に山陰中央テレビに入社。父の青木幹雄参院議員が内閣官房長官を務めた1999年10月、2000年7月に秘書官。01年8月から10年6月まで公設第1秘書。早稲田大教育学部卒。出雲市大社町。当選1回。

社民、国民新両党の支持者の離反も招いた。

松内氏は全国的なみんなの党の人気と、おじの故郷内義雄元衆院議員の旧支持者を頼みに、「旋風」を起こそうと狙ったが、伸びを欠いた。

昨年の衆院選・島根1区に続く挑戦となった石飛氏は「二大政党の戦いに埋没。消費税率の反対を軸とした訴えも、浸透しきれなかった。根をくぐる」と約束した。

政権奪回に努力し、連日のように行った「空中戦」の効果は半減。前回選以来、共闘を続けたの温かい支援に支えられ

きょう

あす

天気

松江

出雲

飯南

浜田

邑南

益田

隠岐

米子

鳥取

きょうの県外予報

東京

広島

大阪

福岡

次回発売案内

山陰の週間予報

京王閣記念競輪(GⅢ)

鳥取選挙区開票結果

(11日午後11時9分、選管最終)			
当158,445票	浜田和幸	57	自新
132,720票	坂野真理	32	民新
20,613票	岩永尚之	53	共新

地域雇用拡大に力
浜田和幸氏の話「もう一度自民党に」との期待感、民主党への失望感を有権者が共有し、出遅れを克服できた。農林水産業の後押し、アジアとの交流拡大を通して、雇用を拡大する。埋もれている鳥取県の魅力の再発見に努めたい。

岩永氏は、消費税率増税反対を前面に打ち出し、民主党、自民両党との違いをアピール。しかし、浜田・坂野両氏の激しい競り合いの前に、最後まで存在感を示せなかった。

しかし、今年に入り、「政治とカネ」問題や米軍普天間飛行場移設問題で、民主党への逆風が強まると同時に勢いは失速。陣営は連合鳥取を通じた党支持層の掘り起こしと、自民党推薦を取りやめた業界への働き掛けを強め、局面的打開を狙った。

公示後は首相や閣僚が次々と来県し、党を挙げて支持を訴えた。ただ、首相の消費税引き上げ発言などで、無党派層に食い込みきれなかった。市町村別では湯梨浜、琴浦、北栄、伯耆の4町でリードするにとどまった。

坂野氏は昨年7月、3候補の中で最も早く出馬を表明。政権交代を追い風に、県内全域で街頭演説を重ね、無党派層の取り込みを目指した。

鳥取市では無党派層からも自民党政権に戻ろうという努力を続けた。

テレビ欄は9面